

「馬場小室山遺跡フォーラム」第 84 回ワークショップ

【 原動力！パブリック・アーケオロジー2017 】

現代社会との「かかわり」からみえてきた馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーと未来への新たな挑戦

<馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の遠隔生業往還と広域流通社会からの大転換とは?—>

馬場小室山遺跡研究の新展開では限界(知識・経験・思考・領域等)からの知的解放を目指します!

新展開1	「ムロさま」の「限界領域」打破 (墓場の公共性にみる墓式と葬式、及び「人骨集積」の真相)	馬場小室山遺跡「第 51 号土壙」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の「累積型改新土壙」と「積葬墓」から探る「追葬型集積土器棺墓」への途— (ムロ1) 寺野東遺跡の「積葬墓」(「SX036埋設土器遺構」)に注目 (ムロ2) 青森県の「再葬壺棺墓」/列島晩期の再葬動向/「金田一型土器棺墓」/土井ヶ浜遺跡の「弥生再葬墓」 (ムロ3) 福島県鳥内遺跡の晩期終末の「追葬型集積土器棺墓」と弥生時代前期の合口土器棺による「積葬墓」の土器社会論 (ムロ4) 鳥内遺跡の弥生時代前期から中期初頭の「追葬型集積土器棺墓」に観る北方砂沢式系文化から「御代田式」へ、そして中部条痕文系土器による交替劇の様相 (ムロ5) 中部から北関東西部における前期の再葬壺棺墓から中期初頭の木棺墓への移行を「阿武隈文化」と比較し、東関東や南奥と関係の深い前期の再葬壺棺墓として田川流域の栃木県芝工業団地内遺跡の様相を把握する。 (ムロ6)「焼葬」(秋田県藤株遺跡の頭蓋骨無し)、「焼人骨集積」(岩手県萩内遺跡)、「人骨集積」(愛知県保美貝塚)と抜歯、そして「髑髏信仰」(長野県宮遺跡の「積葬墓」) (ムロ7)「人骨集積」と抜歯は<犬歯>と<犬歯+第1小臼歯>の2系列が顕在化 (ムロ8予告)「人骨集積」から「土器棺集積」へ
新展開2	「オムちゃん」と「ムロさま」との「限界知識」打破	土偶と土面/顔面付土版/人面文土器等の関係、そして容器形土偶/顔壺へ (オム1) 泉坂下人面イデオロギーの拡散ネットワーク (オム2)「人面文インダストリー論」による「亀ヶ岡型変相イデオロギー」の出現 (オム3)「仮面土偶」の発達と「突起土偶」、そして山形土偶の形成 (オム4予告)「髑髏信仰」と「亀ヶ岡型変相イデオロギー」、そして「ムロさま」 (オム5予告)「髑髏信仰」は「ムロさま」から容器形土偶や顔壺の土坑墓へ
新展開3	「シオ(塩)もん」の「限界経験」打破 縄文時代の製塩土器は「製塩せんごう土器」が真相! 固形塩の物流ではなく、大形魚塩蔵品・汽水系塩煮品に留まらず、濃縮海水を内陸で希釈する淡水魚塩煮の普及か?	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ1) 定住制社会から生業往還としての製塩遺跡へアプローチ (シオ2) アマモやヨシ(アシ)の「草木灰」は濃縮工程での使用か? (シオ3) 製塩遺跡の操業タイプ(短期型と長期型)と燃料問題 (シオ4) 下布田遺跡の「製塩土器」在地性は古鬼怒湾型変遷との乖離! 枯れたアマモを特定の場所に集めて乾燥させる「塩草場」の存在、及び天日と地熱(熱砂)利用の採鹹・せんごう工程に相応しい「製塩土器」鉢形態の確立 (シオ5) 宇都宮市刈沼遺跡からは寺野東遺跡よりも多数の「製塩土器」が検出し、在地で淡水魚の「塩煮」が浮上。鬼怒川流域の口縁部形態は下布田遺跡とは大きく異なり、古鬼怒湾型変遷の1系列である口縁部水平ヘラカットが定着 (シオ6) 三陸北部における「製塩土器」の年代と系統(1) 久慈市大芦Ⅰ遺跡の長胴深鉢形態と僅かな出土点数に注目した「製塩せんごう土器」の提唱
新展開4	「タマきみ(君)」の「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺棺墓」への流通実態(上越周辺北信経由)解明 (タマ1) 熊谷市飯塚南遺跡の土坑墓出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群 (タマ2予告) 長野県坂城町保地遺跡の抜歯人骨とヒスイ製垂飾品の年代

1. 【「山田湾まるごとスクール」のプレゼン準備活動】：川半貝塚に学ぶ(1)

1-1. 山田町の貝塚

- ・私たちが山田町の先史遺跡について検討を続けているのは、①関口川流域の沢田遺跡群・房の沢古墳群、②船越半島の貝塚群です。
- ・『岩手の貝塚』から山田町の貝塚を抜粋すると、次の6貝塚が記載されている。田ノ浜(大洞)貝塚が不明とあるのは現況のことと思われ、学史的な貝塚遺跡(小田島禄郎による発見と発掘(1929年)、水野孝昭による骨角器の紹介(1936年)、および吉田義昭による発掘調査成果(1968年)など)であることは、今回の配布資料(鯨(マッコウクジラ)骨製品など)を見ただけでも明らかです。

①川半貝塚(標高 15m・緩斜面)：「大木8b」／コウダカアオガイ・イシダタミ・コシダカガンガラ・クボガイ・タマキビ・クロタマキビ・ウミナ・ヒレガイ・チジミボラ・レイシ・イガイ・ホタテ・マガキ・ウチムラサキ・アサリ・クチバガイ・ウバガイ・ヒメシラトリ・サビシラトリ・シラトリガイモドキ・チシマフジツボ・オオバフンウニ・マグロ類・カサゴ・フサカサゴ科など

②新道貝塚(標高 10m・緩斜面)：中期

③大浦崎貝塚(標高 40m・丘陵)：不明

④沢田II遺跡(標高 12m・丘陵尾根崎・遺構内貝層)：「大木 10 式」／ウミナ・ヒメシラトリ・アサリ・ネジボラ・コエゾボラモドキ・シライトマキ・マダラ・フカサゴ科・アイナメ

⑤田ノ浜・大洞貝塚(標高 15m・緩斜面)：不明

⑥船越第4地割・山ノ内II遺跡(標高 60m・丘陵尾根端・遺構内貝塚)：「大木8b・10 式」／イガイ・クボガイ・スガイ・ヒメシラトリガイ

- ・平成23年の3・11東日本大震災では川半貝塚の高地部が高台移転地として発掘されましたが、佐藤源嗣(1963)『大洞貝塚調査報告書』、山田町文化財調査委員会(ガリ版印刷)によれば、昭和8年の三陸津波で山田町により発見されたのが田ノ浜(大洞)貝塚で、以下に抜粋を記します。

「ハ 本貝塚は昭和8年三陸津波により現在地に部落移動の際敷地造成等に依り無意識に発掘発見されたものであり当時該地耕作者関係者等を通じその見聞を総合すれば現在の幹線道路面及び現在地の一角にある家畜舎造成の際相当量の貝層が露出されたと云はれている随って此の辺は或程度の規模様相をもつ貝塚であった事は地相の判断現在地の状態等を通し一応の推定を可能ならしめると思はれる」

「7 調査の方法

当貝塚の調査に当っては規模の大小価値の軽重は別として山田町に実存する文化的遺蹟としての認識に立ち細心且つ慎重を期し調査を進めた、その概要は次の如くである」

- ・佐藤源嗣による調査は昭和38年7月30・31日ですが、その直後の同年10月5日～9日に同じ地点を全域にわたり発掘調査し、「遺存する貝塚部分の全部を発掘した」のが草間俊一と吉田義昭で、昭和43年の「吉田・田ノ浜貝塚報告」です。

1-2. 川半貝塚の概要

- ・須原拓ほか(2017)『岩手県文化振興事業団文化財調査報告書第668集 川半貝塚発掘調査報告書 町営災害公営住宅建設事業関連遺跡発掘調査』、山田町建築住宅課・(公財)岩手県文化振興事業団
- ・縄文時代前期前葉と中期後半の住居址や包含層が検出され、前者ではTo-Cuテフラ降下期以前のIV層(～「大木2a式」)とTo-Cuテフラ降下期以後のⅢ層(「大木2b 式」前後)に分離されています。縄文原体のパブリック・アーケオロジが一つの柱となるでしょう。

2. 【「オムちゃん」の話題】：「突起土偶」から「山形土偶」への変遷におけるミッシングリンクの追求

- ・安井健一(2017)「四街道市嶋越遺跡出土土偶の再検討」『千葉縄文研究』7
印旛沼周辺では「筒形土偶」に後続する形態として「コケン土偶」(鈴木正博、2012)が散見されます。小菅法華塚遺跡の「コケン土偶」には「加曾利B1-2 式」期も見られ、「山形土偶」の「加曾利B2式」成立期には嶋越遺跡の**大小2系列(波状口縁の「山形土偶」と平縁突起の「球頭土偶」)**が展開する可能性もあり、土器型式の成立と相俟って複雑な様相を呈しています。

3. 【「シオ(塩)もん」の話題】：内陸の「製塩土器」は何に使用されたか？

- ・馬場小室山遺跡の「製塩土器」研究(2009年の日本考古学協会発表)を通して考察した「縄文潮汐エンジン」と「製塩土器」の出土意義が理解されないようなので、改めて注目することにします。
1976年時点では浮島周辺と古鬼怒湾ラグーン地帯に見られる貝塚群の大型魚類に注目し、塩蔵品の物流を考察しました。その後、浮島周辺のマダイを特産物とし、ラグーン地帯はスズキとクロダイな

・近藤義郎等の想定する固形塩は縄文イノセントであるとして、1976 年以来唱えてきた「**縄文塩**」は、固形塩とは用途が全く別、結晶化は必要最低限で、「焼塩」などの工程も全く想定する必要がないのは、既に検討してきました北奥や内陸の「製塩土器」には器種の単純性に特徴が見出せるからで、濃縮工程のみに「製塩土器」の使用が想定され、濃縮・希釈のネットワークにより、懸案であった淡水魚の「塩煮」も可能でしょう。参考までに石毛直道は淡水魚による魚醤を強調しています。

が、現在の日本ではほとんど姿を消している。私たちは塩辛系食品の魚醤を液体状に加工したものを魚醤油と呼んだが、それも日本では秋田のシヨツルや能登半島のイシリなどしか残っていない。

細かい理由は省くが、私は味噌や醤油のような植物性の発酵食品である穀醬より魚醤

86年、「魚介類の発酵食品に関する研究」という論文を書いた。東京農業大学に提出し農学博士号を授与された。先に記した事情で学位をとらずにいたが、海外では「ドクタリー・イシゲ」と呼ばれることが多く、そのつど訂正するののも面倒で、後ろめたさや居心地

4-1.「お米サンタ」

・新潟からコシヒカリ75kgとコガネモチ55袋を、ネットで愛媛ミカン2箱の贈答手配が終了しました。

(平成29年) 11月29日(水曜日)

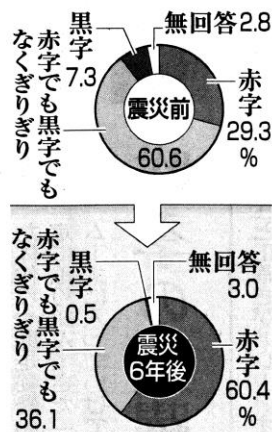
13版 社会 42

2011年の東日本大震災で被災し、経済的に困窮した状況にある宮城県石巻市と岩手県山田町の計約400世帯のうち、震災6年後も家計が赤字だったのは約6割で、震災前の約3割から倍増したことが、非政府組織(NGO)「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」の調査で分かった。被災に伴う失業や自宅再建費の負担増などが原因。今も多くの被災者が経済的問題を抱えている実態が明らかになった。NGOは2市町で子供の進学資金を支援。今年2～5月、支援を受けた世帯にアンケートし、396世帯から回答を得た。

家計赤字世帯 6割に倍増

被災地調査 失職や自宅再建響く

東日本大震災前後の家計状況



の切り崩しなどで家計が赤字だったと答えたのは116世帯(29.3%)。一方、震災から6年後の家計が赤字と答えたのは239世帯(60.4%)に上った。回答者のうち337世帯(85.1%)が一人親世帯だった。被災と病気を機に、夫が失職になり収入が激減「震災債務に追われる。再建した店も家も売却準備をしている」などだった。経済状況の悪化を理由に、子供の学習塾や習い事を断念した世帯も約4割あった。NGOの担当者は「震災で親が死亡したり、離婚したりして収入が減り、子供の教育機会を制約している。公的支援が必要だ」と指摘している。

東日本大震災6年 影響なお

避難者8万人下回る

復興庁は28日、東日本大震災の避難者が全国で7万9310人(13日時点)になったと発表した。10月12日時点の前回調査に比べ2556人減り、震災から6年8カ月で8万人を下回った。震災直後の避難者数は推計47万人。避難先は47都道府県の1054市区町村。都道府県別では、福島が最多で1万8770人、次いで宮城の1万1084人だった。岩手は9584人で、初めて1万人を下回った。施設別に見ると、仮設住宅や民間賃貸住宅などで暮らす人が5万9553人、親族・知人宅に身を寄せている人が1万9483人、病院などが274人。

転校1万5千人、戻れぬ人も

文科科学省は28日、東日本大震災の影響で以前の居住地とは別の地域の学校に転校した小中高生が5月1日現在で、昨年より2360人減の1万5314人となったと発表した。東京電力福島第1原発事故により多数の住民が避難している福島県から1万836人で最も多かった。文科省は「今なお多数の人が避難を強いられ、戻りたくても戻れない人もいる。支援を続けたい」としている。被害が大きかった岩手、宮城、福島から他の都道府県に移った児童生徒は岩手200人、宮城1049人、福島6948人。3県の児童生徒の受け入れ先は新潟858人、山形774人など。

4-2. 今後の予定

・3/3(土)・4(日) コムナーレ9Fで「山田湾まるごとスクール」のパネル展示・発表
★3/4(日)にワークショップを行います。

4-3. その他